

# 西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2011年9月14日発行 VOL.95 発行者：会長 森田正樹 編集：広報部

## NLeG の友人の近況



### ～ シリルさん緊急来日！～

昨年暮れにアジャンに帰ったシリル・ダルグランデさんの記憶は皆様、特に昨年の忘年会に参加された方には、まだ新しいものと思います。

労働ヴィザの更新ができず、泣く泣く帰国して、フランスで仕事探しをしていたシリルさんですが、半年以上の就活の末、就職先が決まったものの、「フランス生活」に疲れて、突然「日本に帰りたくなった！友達に会いたくなった」と8月初めに成田着！関西にも8月中旬にやってきました。

連絡をもらったものの、急なことでしたので、市民の会として何も歓迎準備などできないまま、数人の幹事と、フランス語部でシリルさんと交流の深かった方数人とで、お盆の明けた8月18日、お会いすることができました。



今度の仕事はロット・エ・ガロンヌのフォワグラ製造業者が中国の国内消費向けに中国工場を立ち上げる、その立ち上げ責任者の仕事だそうです。

かつて中国でアリアンス・フランセーズの先生を3年間していたシリルさんにとって、未知の国ではないとはいえ、さまざまな困難が予想される、厳しい仕事になりそう・・・とのこと。しかし、「中国からなら週末を過ごしに日本に来ることもできる、頑張ってみる！」と元気いっぱいでした。

「次に来日するときは少し早めに知らせてね！もっと盛大に歓迎会をするから！」と約束して短いけれどなごやかなひと時に、別れを告げました。

(佐藤祥子)

フランス語でしゃべろう！

2516669442516 25166899225167001625167104025 64251673088251674112



## Bonjour la France!

今年度の Bonjour la France 企画の第 2 回目が決まりました。

ゲストのモルガン・ビヤールさんは 1987 年南フランスの Romans Sur Isere という町(Rhone Alpes 州、Drome 県)に生まれ、グルノーブル大学で 6 年間、日本語を勉強。この間に一年間、名古屋に留学しました。仏文学や日本文学に興味があり、子供のころからずっと柔道を続けています。日本の文化、歴史、生活に対する興味が強く、日本人の思考法を深く理解するため、日本での就職を希望しており、今年の二月からフランス大使館企業振興部に在籍しています。



日本語ペラペラのモルガンさんに日本語での講演をお願いしましたので、フランス語がおできにならない会員さんもぜひ奮ってご参加ください。

フランス語も聞きたい、しゃべりたい、という会員さんには、フランス語での会話もぜひお楽しみください。

開催日：2011 年 10 月 1 日(土)

時 間：午後 2 時 ~ 午後 3 時 3 0 分

場 所：フレンテ 4F 国際交流協会 会議室

会 費：会員 500 円 非会員 800 円(会員の紹介をうけた方に限ります)  
当日お支払下さい。

【参加申込・問合せ】NLEG フランス語部まで、できるだけメールで：

[bonjourlafrance@hotmail.co.jp](mailto:bonjourlafrance@hotmail.co.jp) まで

(非会員の方は、電話番号・紹介者の氏名もお願いします)

【しめきり】 9月30日

## 藤枝知子さん 光文社のエッセイに入選

会報にフランスでの生活紹介を連載していただいている会員：藤枝知子さんが、光文社雑誌「女性自身」の企画のエッセイコンテストで入選されました。おめでとうございます。

題名は「パステル」(ペンネーム：藤ソフィー)で、他の入選作品と併せて27編が一冊の本にまとめられ8月に出版されました。「涙」をテーマにしたものですが、それぞれの作品は、人間生活の中で作家ご自身が経験してこられた様々な喜怒哀楽の表現が我々の生活に密着したものばかりなので一層感動的です。

書名：「100万粒の涙」(出版：光文社文庫、編者：「女性自身」編集部) 価格 520円

山口県の会員から、お手紙が届きました



～懐かしい思い出～

白井佳子(山口県山陽小野田市在住)

はるか山口県からこんにちは。

私は、1998年の第2回アジャンスケッチ旅行に参加して以来、西宮市を出て郷里の山口県に戻るまでの約5年間、NL e Gの活動に参加していた者です。

ロット・エ・ガロンヌ旅行での感動もさることながら、メンバーの皆さまとの交流は、とても素敵なものでした。絵画展やフランスからのお客様をお迎えしたり、いくつものイベントに参加したり、懐かしい思い出がたくさんあります。

ある年のロット・エ・ガロンヌウィークでは、作品展の隣室に、ドライフルーツ、ビュゼワイン、フランスパン、仏のベレー帽、風景写真、口県の女流作家の水彩画などのお店ができて、その一角は、カフェテラスのようにしつらえてありました。夫も、この日は応援で参加。ベレー帽をかぶって店番などしておりましたが、やがて店番を交代してもらうや、ワインがお好みとお見受けしたT画伯、O画伯などを誘い込み、テーブルを陣取って、おいおいに盛り上がったのも、愉快的思い出です。

また、甲子園ハーフマラソンにロット・エ・ガロンヌからの選手が出場した折は、口県の旗とフランス国旗をアップリケして作り、絵画部の皆さんと一緒に武庫川沿いのコースで、大きな旗を振って、夢中になって応援したこともありました。

2002年(平成14年)郷里の山口県にUターンした後は、夫は、暫く弁護士をしておりましたが、市民団体から乞われて市長をすることになりました。第二の人生は、ふるさとへの恩返しと、公平公正をモットーに頑張っております。

私は内助に追われ？絵もあまり描きませんが、西宮市のアジャン展だけは、辛うじて毎年、出品させていただいております。

当時のことが、とても懐かしいです。



## 秋に向けての風景



フランスの新学期は夏休み明けから始まります。

学年末は7月の始めで、夏休みに入る頃に学校から1枚のお手紙が届きます。

日本では珍しいと思いますが、次の学年のクラス決定(学年、クラス、担任名)と次のクラスの準備物が担任発信で一覧表で渡されるのです。同じ手紙でさりげなく告知されるクラス発表はちょっとしたドキドキ感があります。1クラス30人未満なのに、必ずといってもいいほど誰か1人は留年した生徒がいます。勿論飛び級制度もありますが、こちらはそんなに多くなく、1学年に1人いるかどうかの割合です。幼稚園から留年が存在するフランスですが、いきなり留年や飛び級を通知されるわけではなく、事前に保護者と学校間(プラス教育委員会)で相談して、納得してもらっての処置です。

では、どうしてドキドキするのでしょうか? 不思議なことに、先生は年によって学年が変わることがほとんどなく、小2担当の先生は次年度でも小2を担当する場合がほとんどなのです。契約の問題かもしれませんが、「学校と学年」を担当する先生は固定化しており、風評は知れ渡っているので「厳しいけどきめ細やか」OR「明るくて柔軟だけど大雑把」など、生徒はもとより保護者も「あっちがいいな〜」、「私はこっちの先生がいいな〜」と想像を膨らませるのです。



また、学校によって違いますが、「小2小3混合クラス」「小3小4混合クラス」などと日本人からすると「どうやって教えるのかしら?」と思うようなクラス編成も存在します。この場合、学校は「どちらのクラスの生徒も学年間で学力差はありません」というのですが、小3の保護者は、どちらのクラスに組み込まれるかによって、ほっとしたり、憤慨したり、時には学校側に乗り込んだり(!)とちょっとした事件になります。

そして、同じ手紙に載っている「次学年クラスの準備物」リストが、フランスの初秋を予感させるものなのです。これは、日本の小学生のお道具箱にあるような「筆記用具、のり、はさみ、色えんぴつ、色マジック etc」を求められるのですが、フランスは各クラスによってとても細かく指定されます。同じ小学校の同学年でも、クラス(担任)が違つと、要求されるものが微妙に違います。

今、思い出してみると...

カルターブル(布製ランドセル) しきりは2つ以上あること。しきり無し  
のものは不可。

黒ボールペン 太さ中くらい 1本 メーカー名指定

赤ボールペン 太さ極細 1本 メーカー名指定

色えんぴつ 12色以上

色えんぴつを入れるための布製の筆箱  
鉛筆 1 本  
はさみ 先の丸いもの  
ブックカバー 三種類  
黒板 伝統的なタイプ ホワイトボードは不可  
チョーク 伝統的なタイプ ペン型のものは不可

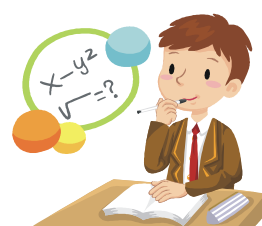


日本の場合、通学カバンは保護者と生徒の好みでランドセルだったり、布製のものだったりですが、フランスでは、先生の好みのもので買い換えるように求められます。(フランス人保護者が素直に買い換えているかどうかは疑問ですが、ほぼ毎年大多数の生徒が通学カバンを新調しているように見受けられます。)

また、教科書は、学校からの貸与で 5,6 年? に渡って使用されます。劣化を少しでも防ぐために、教科書にはカバーをかけて、カバーに名前シールを貼ります。

ノートは学校でくれる場合が多いですが、ちょっとした計算や書き物の場合、小さな黒板を使用します。こちら先生好みで、オーソドックスな黒板だったり、小さなホワイトボードだったり、毎年買換えていました。この小さな黒板は重くて、また落とすとすぐ割れるので、「どうしてこんなものを使用させるの?」と思っていました。また、ボールペンのメーカー名を指定というのは、日本では考えられません。ただ全般的に、日本ほど筆記用具の品質がよくないので、先生が読みやすいようにメーカーを指定しているのかなあ? と推察するのみです。シャープペンシルは日本ほど普及してなくて、種類も少なく、先生からの指定もありません。鉛筆も大抵 1 本持ってくるようにいわれるだけです。

フランスで一番愛用されている筆記用具は、直訳「羽ペン」...万年筆です。フランス生活の初めは、「羽ペン」と直訳してしまい(苦笑) 文具コーナー中を羽付きのペンを探し回っておりました。毎年変わる先生からの要求された文具は、毎年何か新しいアイテム(というか新しい表現)が加わるので、困り果てた時はリストを差し出して「すみません、これは何ですか?」と同じように子供のために買物にきている見知らぬ保護者に質問していました。



そう、フランスの初秋の風景は広大な文具売り場です。全ての先生方からのリクエストされた多大な種類の文具が、8 月の中旬くらいから一斉にスーパーの売り場を大きく占めるのです。新学期前ともなると、保護者と子供が、リスト片手にスーパーの特大大文具コーナーを蝶々のようにヒラヒラと舞っています。お目当てのアイテムを見つけると、巨大カートの中にぼんぼん放り込みます。きっと文具メーカーは売り上げの大半はこの時期に集中していることでしょう。8 月の最初は多彩な種類の文具は大量にあるのですが、うっかり買い忘れて新学期に入ってからスーパーへ行くと、特大コーナーは急にしぼんで、申し訳程度の文具コーナーに縮小され、お目当ての文具を見つけるのに一苦労します。新学期に向けた沢山の種類も色も、1 アイテムー1 種類に戻るので。



尚、少子化対策が徹底しているフランスでは、この「新学期対策」費用が助成されます。年収制限などあるかもしれませんが、申請すれば子供のいる家庭に助成金（日本の感覚でいうと5000円くらい？）をもらえるようです。

新しいカバンに新しい文具を詰めて、夏の終わりを実感し、秋の涼しさで気を引き締めるのです。

（追記）小学校の古い机（1つの机が横に長く、2人で使用するタイプ）には、真ん中に穴が開いています。これは、万年筆のインク瓶入れです。この瓶からインクを2人で使っていたようです。今ではカートリッジ式の万年筆しか使用しないので古い時代の名残です。

（藤枝知子）

## おめでとう

ロット・エ・ガロンヌからの語学留学性としてNLEGのメンバーのみなさんがホームステイや、ホームビジットでお世話くださったベランジェールさんからの最新のニュース！

CLEMENCE(クレマンヌ)ちゃんという女の子が8月12日に誕生、ベランジェールはママになったそうです！お世話になった方々にはあらためてお知らせをしなくてはいけないけれど、今はまだ慣れない授乳やらなんやらで、てんやわんやの様子、とりあえず会報にてお知らせいたしますので、どうぞ皆様、母子の健康とベランジェールの家族の幸せをお祈りくださいね！



## 訃報

元会長としてご活躍された上田善弘さんが9月3日に、そして元会計の池内正義さんが9月10日にお亡くなりになりました。

永年、NLeG役員としてご活躍いただいたお二人のご冥福を謹んでお祈りいたします。

<編集後記> 上田さん、池内さん、とても残念です。お世話になりました。ご冥福お祈りします。テレビのニュースや紙面、雑誌も、まずは“なでしこ”から...！と、一変したように感じるこの頃です。はじめての編集で、なでしこ魂を出してみましたが...いやはや。ご指導ありがとうございました。（牧）



事務局 : 〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮4階 秘書国際課内

Tel:0798-35-3468

Fax:0798-32-8673

Home Page : <http://nleg.net>

E-mail: [info@nleg.net](mailto:info@nleg.net)